

特別寄稿 (豊中市医師会雑誌第44号 平成17年発行)

『豊能広域こども急病センター』 1年を振り返って

財箕面市医療保健センター

竹内 泰雄

我が国の小児救急医療は、核家族化の進行と女性の社会進出が増加したことにより、小児救急へのニーズは年々増加してきています。一方救急を担う小児科医師は減少しています。開業小児科医の高齢化と新たに小児科を希望する医師が少なくなってきました。この結果、小児科を標榜していた診療所や病院は、次々と閉鎖され、患者さんは市立病院等に集中しています。ここでは、診察待ちの時間が長時間となり、従事する医師は入院と外来患者の両方の診察に追われ、医療事故や過労死等の恐れが出ています。さらに、この病院で当直する医師は、当該病院勤務医では対処できず大学からの応援協力があったて維持してきましたが、平成16年4月から医師臨床研修制度がスタートしたことにより、大学からの応援が難しくなりました。

過日の新聞によりますと、夜間の小児急病患者の、たらい回しや医師の過労など危機的状況にある我が国の、小児救急医療体制を整備するため、厚生労働省は拠点施設への医師の集約化を軸に診療報酬の改定など救急医療

体制の再編に取り組むことが、やっと決められました。

豊能地域では、これに先立つこと4年前から、4市医師会長はじめ小児科医師と行政機関で構成する検討会で協議を重ね、16年4月1日に圏内の4市2町が、協同で運営する同センターが設置できました。これは当時、豊中市医師会長で、豊能地域救急医療部会の委員長であった大井善博先生が、この問題は、各市単独では対処できないので豊能地域小児救急医療体制検討会を設置し「地域全体で解消策を見いだすべきである」との提言があり、これを実践できたことに寄るものです。

この施設は、自治体の枠組みを超えた初期小児救急医療機関として、全国では他に例がなく、関係方面から大変注目を浴びた中での運営でありました。センターに出務する医師は、4市医師会・大学病院・国立循環器病センターの小児科医師で、院内処方や検査機能をどうしたのか、1日の患者数をどれ位想定したのか、その根拠は何に基づいたのか、看護師等医療スタッフをどう確保し、何名配置

するのかが、全国から数多くの照会がありました。

受診患者数は、1年間で4万人近くとなり（詳細別表）地域別分析では、人口に比例して豊中市が全体の35%で、吹田市・箕面市・池田市となっています。センター受診後入院や精密検査が必要と診断した患者は、二次輪番病院へ後送しましたが、この割合が2%を切り、このことは逆な見方をすれば軽症患者が殆どであり、各市の救急隊との連携がうまくいき、痙攣等の重症患者は直接二次病院へ搬送でき、患者さんにとっても良かったので、設立目的の柱であった、「一次はセンターで二次は市立病院で」機能分担が、果たされたように思われます。

また、経営面から見ると、患者数が当初予測を大幅に上回ったことと、「地域連携小児夜間休日診療料」の対象医療機関として、認めて戴いたことにより収支は大きく改善し、2億円の赤字見込みが6,500万円位になりました。

しかしながら、全てが良かったのではなく、いくつかの問題点と今後の課題も浮き彫りになりましたので整理し、センターの運営に当たっていききたいと思います。

今後の課題

- 1 センターはあくまで、応急診療所で翌日は「かかりつけ医」に診て貰うよう勧奨する。
（センターの運営方針として、広く周知させる。）
- 2 受診患者が集中する冬季の待ち時間を改善する。

（診察室の確保等設備面から、医師は最高で5人体制が限度である。しかし会計・薬剤処方のOA化をより進め、ここでの待ち時間は短縮可能である）

- 3 小児救急に対する患者教育を実施する。
（センターへの電話問い合わせ件数の半分が、家庭での手当の方法指導と翌日まで待って、かかりつけ医に行きなさいとの回答である。これで親の不安を取り除くことができているので、府の電話相談とタイアップしながら小児救急に対して親の意識改革に努める。）
- 4 データー分析と情報の発信に努める。
（先駆的施設として、センターでしか出せない数値や状況を解析し、国・府・地域住民に対して情報を発信することにより、小児科の診療報酬の改定等小児救急医療政策の改変にむけて関係機関に働きかける。）
- 5 医師臨床研修機関としての役割を果たす。
（17年度から大阪大学医学部附属病院や各市立病院小児科に廻ってくる研修医の小児救急の現場医療機関として、大学等との調整を充分行い、ひとりでも多くの小児科医が育つように協力していく。）

最後に

大阪府下の各医療圏においても、その地域にあった小児救急医療体制の整備に取り組んでおられます。経費的なことや立場所などいろんな課題があるように聞いていますが、なかでも医師の確保が一番の懸案事項になっているようです。

幸い当地域は、医療資源に恵まれ、各市医師会の先生方の協力があって、これまで順調

特別寄稿

に事業展開しています。当分の間、周辺地域からの患者さんは、受け入れざるを得ない状況にありますが、センターを受診される患者さんの信頼に応えるため、医療スタッフの確保をはじめ諸設備を充実して、これまで以上

職員一同努力して参りますので、豊中市医師会の先生方のご協力をお願いいたします。

別紙 1

	患者数	豊中	吹田	池田	箕面	豊能	能勢	川西	その他	1日平均
4月	2,883	1,007	829	215	439	39	10	90	254	96.1
5月	4,175	1,485	1,168	314	609	37	13	160	389	134.7
6月	2,766	962	777	257	400	27	11	106	226	92.2
7月	2,977	1,087	796	216	421	36	9	127	285	96.0
8月	2,040	714	498	130	305	17	8	80	288	65.8
9月	2,159	763	582	160	321	22	6	73	232	72.0
10月	2,617	998	654	181	423	27	1	102	231	84.4
11月	2,572	912	725	170	379	26	9	103	248	85.7
12月	4,429	1,465	1,191	325	746	53	16	158	475	142.9
1月	3,561	1,245	902	280	537	38	5	124	430	114.9
2月	4,398	1,538	1,169	396	690	52	14	220	319	157.1
3月	4,257	1,450	1,117	377	669	51	20	182	391	137.3
合計	38,834	13,626	10,408	3,021	5,939	425	122	1,525	3,768	106.4
構成比	100.0%	35.1%	26.8%	7.8%	15.3%	1.1%	0.3%	3.9%	9.7%	

別紙 2

重症（二次搬送患者）	687人	1.8%
中症（点滴を受けた患者）	2,829人	7.3%
軽症 （診察・処置・投薬のみの患者）	35,318人	90.9%
合計	38,834人	

資料 2

産婦人科を受診される妊産婦・患者さんへ 二人主治医制度 導入のお知らせ

【開業医（かかりつけ医）と豊中病院産婦人科医の病診連携】

全国的に深刻な産婦人科医不足で『地域に必要な医療が受けられない』との不安を解消するため、地域で開業する豊中産婦人科医会（かかりつけ医）の協力により、**かかりつけ医と市立豊中病院産婦人科医が医療機能に応じた役割分担をし、妊産婦・患者さんが安全な医療を安心して受けていただく「二人主治医制度（病診連携システム）」を導入しています。**



◆ 二人主治医制度は、お互いの持ち味を生かした安全・安心の二重体制

- 「かかりつけ医」は、妊産婦・患者さんの通常の診察と血液検査・処方など日常的な診療を担当します。また、病気の予防／日常医学管理／専門的治療（入院など）の必要性を判断します。
- 市立豊中病院の産婦人科医は、「かかりつけ医」から報告された病状や経過、検査結果などを参考にして最新の医療機器を用いた精密検査や専門的な診療を行います。必要に応じて入院・手術治療を行います。
- 「かかりつけ医」にご相談いただけますと市立豊中病院の「診察予約」を最優先で受け付けいたします。市立豊中病院を受診する際に、「かかりつけ医」からの紹介状をご持参ください。

◆ 二人主治医制度における「かかりつけ医」と「市立豊中病院」の機能分担

産科医療の機能分担

《かかりつけ医》

- ・ 正常経過の分娩（入院設備のある医療機関）
- ・ 市立豊中病院分娩予約の妊産婦健診
- ・ 定期診察、生活指導、服薬指導 など

《市立豊中病院》

- ・ 正常経過の分娩
- ・ ハイリスク分娩、合併症妊婦の入院受入れ
- ・ 妊娠経過中に発生の緊急事態に対応
- ・ 胎児超音波検査、NST検査 など

※ 小児科医・麻酔科医が常駐して安全な医療を提供します。

市立豊中病院での分娩を希望される妊産婦さんへ

- ◆ 二人主治医制度に参加している「かかりつけ医」で市立豊中病院の分娩予約を受付けます。
- ◆ 原則、31週までの「妊産婦健診」は、地域の医療機関（かかりつけ医）で受けていただきます。
- ◆ 妊産婦健診の料金は、各医療機関でお尋ねください。

婦人科医療の機能分担

《かかりつけ医》

- ・ 定期診察、血液検査
- ・ 手術終了後の経過観察
- ・ ビル処方 など

《市立豊中病院》

- ・ 最新の医療機器による精密検査
- ・ 手術目的の入院
- ・ 化学療法、放射線療法 など

救急医療の受入れ

二人主治医制度で受診の妊産婦・患者さんが病状急変した時は、「かかりつけ医」に連絡ください。「かかりつけ医」に連絡できないときは、市立豊中病院が救急診療を担当します。

※ 緊急時の連絡方法などを、ふだんから「かかりつけ医」とご相談ください。

◆ 分娩予約・健診予約のお問合せ先

市立豊中病院 地域医療室

TEL. 06(6858)3597 FAX. 06(6858)3555

豊中市医師会、豊中産婦人科医会、市立豊中病院

※受診方法は、次の頁をご参照ください。

産婦人科医療の「病診連携二人主治医制度」について

病診連携二人主治医制度は、地域の医療機関（かかりつけ医）と病院が医療情報を交換、1人の妊産婦・患者さんを二人の医師が連携して治療にあたることです。

妊産婦・患者さんのお身体の状態に応じた医療を適切に提供するため、「かかりつけ医」から「豊中病院」に、「豊中病院」から「かかりつけ医」に、医療機関の機能による相互連携のシステムです。

日常の健康管理や初期的な診療は身近な「かかりつけ医」で、精密な検査や高度な治療は当院のような専門病院で機能分担し、みなさんの治療にあたります。

市立豊中病院の産婦人科を受診される方へ

産科医療

豊中病院分娩予約された妊産婦さんは、31週目までの健診は「かかりつけ医」が担当し、32週目以降の健診と分娩までを豊中病院が担当します。初診時に産婦人科医がご説明いたします。

31週目までを担当する「かかりつけ医」のご案内と、かかりつけ医にお渡しいただく「紹介状」のご自宅郵送を地域医療室でいたします。紹介状の料金（文書料）は、1,019円です。

32週目以降に豊中病院で健診を受けられるときは、「かかりつけ医」からの紹介状をご持参ください。

◆ 豊中病院受診⇒紹介⇒31週目までは「かかりつけ医」⇒紹介⇒32週目以降は「豊中病院」

産科救急医療

●豊中病院に分娩予約されている等「二人主治医制度」の妊産婦さんには24時間救急対応します。

婦人科医療

日常の健康管理や初期的な診療は身近な「かかりつけ医」で受診してください。

「精密検査」、「手術目的の入院」、「化学療法・放射線療法」など専門的な医療が必要なときは、「かかりつけ医」からの紹介があれば「診察予約」を最優先で受け付けいたします。受診の際は「かかりつけ医」からの紹介状をご持参ください。

婦人科救急医療

●豊中病院は、平日9:00から17:00までの間、婦人科救急に対応します。

●夜間、土・休日は、「救急医療情報センター（06-6761-1199）」で医療機関の案内を行ってま。

産科・婦人科「かかりつけ医」を受診される方へ

産科医療

正常経過の分娩を入院設備のある「かかりつけ医」で受付けています。

また、豊中病院で分娩を希望される方は、二人主治医制度に参加している「かかりつけ医」で分娩予約を受け付けます。この場合、31週目までは「かかりつけ医」が健診を担当しますので、豊中病院に向く必要が無く通院のご負担も少なくなります。

婦人科医療

定期診察、血液検査、手術終了後の経過観察並びにビル処方など、日常の健康管理や初期的な診療は「かかりつけ医」が担当します。

「かかりつけ医」で診察した結果により、精密検査や入院治療が必要なときは豊中病院の「診察予約」をお取りいたします。

資料 3

平成 20 年度会務報告より

休日急病診療委員会

担当理事 鈴木秀和

1) 診療実績（休日急病診療）期間 20 年 1 月～12 月（平成 20 年度）

豊中市医療保健センター（本部）	○診療日数	75 日
	○出務医師数	延 161 名
	○総患者数	2,382 名
	（ 1 日あたり平均患者数	31.8 名
	内科	1,230 名
豊中市立保健センター（南部）	○診療日数	75 日
	○出務医師数	延 152 名
	○総患者数	1,632 名
	（ 1 日あたり平均患者数	21.8 名
	内科	613 名
	小児科	1,019 名

2) 休日急病診療委員会の開催

- ① 平成 20 年 5 月 29 日 豊中市医師会第一会議室
- ② 平成 20 年 9 月 11 日 豊中市医師会第一会議室
- ③ 平成 21 年 1 月 19 日 豊中市医師会第一会議室

○ 各期共通の議題

- ① 出務医師輪番表の作成
（公平を期するため豊中市医療センター担当職員に出務医師輪番表案を作成していただき委員会にて検討の上承認する。）
- ② 特定期間の出務医師の公募
（年末正月期間、5 月連休、8 月盆期間については豊中市医師会月報に公示した上出務医師を募集し、①と同様にして輪番表を作成する。なお、平成 21 年度については 9 月にも 4 連休が出現しておりその対応について平成 20 年度より協議した。）
- ③ 出務医師より寄せられた意見、要望についての検討
（医師診療日誌を注意深く読み返し備蓄薬剤の補充、診療上の問題となる点を洗い出し改善策を検討した。）
- ④ その他

3) まとめ

休日夜間診療の不備なる点は全国的なものとなっています。小児科夜間は箕面市にある豊能広域子ども急病センターを受診することになると思われるが休日昼間においては、我々の 2 つの医療センターが今後重要な位置を占めることになると思われます。市立豊中病院への休日昼間の受診が集中していることを少しでも分散化させ、この二つの医療センターへ受け入れることにより大阪府下の各市民病院の危機といわれるこの時節、市立豊中病院を結果的に少しでも守る一助になると考えます。今後とも会員の先生方の御協力をお願いします。

資料 4

平成 20 年度会務報告より（一部改変）

在宅医療委員会

担当理事 前 防 昭 男

(1) 在宅医療委員会

地域住民の高齢化、介護保険導入以来増加の一途をたどる在宅治療可能な慢性疾患患者の退院などにより、豊中市においても年を追うごとに在宅医療へのニーズが高まってきている。当委員会では 13 名の医師会会員が委員で、年に 4 回在宅医療委員会が開催され、在宅医療の意見交換を行っている。

また、在宅療養支援診療所合同会議および地域包括支援センター連絡会議を開催し、今後在宅療養支援診療所間での診診連携および各病院の地域医療連絡室（病診連携室）、在宅医療関連機関などと連携を保ちながら、良質の在宅医療を地域住民に提供するための各種活動に取り組んでいきたい。

(2) 在宅医療協力医・ターミナルケア推進事業

この推進事業は大阪府の補助事業であり、在宅関連活動費に対して補助金を受けることができる。同推進事業の取り組みの方向づけをする在宅医療協力医・ターミナルケア推進事業委員会、在宅医療委員会が中心となり、さらに医師会内の各種関連委員会（病診連携委員会、医療情報委員会など）と連携を保ちながら、最終的には理事会の承認を得て予算を有効に活用している。

現在事業に基づいて行われている主な内容を下記に挙げる。

① 主治医紹介システム

病院や在宅医療関連施設（地域包括支援センター、訪問介護ステーションなど）や一般市民からの「かかりつけ医」および「在宅医療（訪問医療、往診）協力医」の紹介依頼に対して、個々の診療所における在宅医療行為リストなどを参考にして、依頼先の各施設へ医師を紹介するシステムである。また、外来通院希望患者に対して近隣の専門医紹介や必要とされる処置の可能な医師の紹介など電話による問い合わせへの対応は年間 100 件にものぼっている。今後さらに詳細なアンケート調査などを踏まえてシステムの強化を図り、新入会員にも積極的に参加していただくように努力している。

② 医療機関マップの改訂

在宅医療での処置可能項目、診療領域、特殊検査などに関する項目を盛り込み、各医療機関の所在地を略図でわかりやすく表示した冊子を平成 12 年度末に医師会員、関係各機関に配布し好評を得た。今回新会員の登録を含め、さらに内容を充実させた改訂版を平成 19 年度に発刊した。

このマップは前記の主治医紹介システムの参考資料として用いられ、今後医療情報ネットワーク上でも閲覧できるように医療情報委員会・ホームページ委員会とも検討する予定である。

③ 在宅医療委員会の開催と小冊子の発刊

医師会会員対象の学術講演会とは別に、看護師や一般市民にも有益となる講演会を定期的に開催している。内容は在宅における寝たきり患者や認知症の高齢者、終末期患者などをめぐる話題について第一線で活躍中の講師を招いて分かりやすい内容でご講演いただき、発表内容は原則として小冊子にまとめて関連機関に配布している。

座談会

●在宅医療講演会

- 第1回 演 題：「褥瘡の治療」
開催日：平成10年8月22日（土）
講 師：大阪通信病院 皮膚科部長 川津 智是 先生
- 第2回 演 題：「少しでも楽になる呼吸療法と在宅酸素療法」
開催日：平成10年11月7日（土）
講 師：国立療養所刀根山病院 内科研究検査科長 平賀 通 先生
" 理学療法士長 植田 能茂 先生
" 作業療法士長 川辺 利子 先生
" 西4階病棟婦長 小島 郁子 先生
刀根山訪問看護ステーション 副所長 長濱あかし 先生
- 第3回 演 題：「新しい痴呆ケア（グループホームへの取り組み）」
開催日：平成11年5月15日（土）
講 師：岡山光南病院 院長 橋本 俊明 先生
- 第4回 演 題：「介護保険にかかわる「主治医意見書」説明会」
開催日：平成11年8月28日（土）
会 場：ホテルアイボリー
講 師：内 科 豊中市医師会 在宅医療委員会 中村 厚 先生
精神神経科 豊中市医師会 理事 小池 淳 先生
整形外科 豊中市医師会 理事 児島 義介 先生
- 第5回 演 題：「脳卒中のリハビリテーション」
開催日：平成11年10月30日（土）
会 場：ホテルアイボリー
講 師：市立豊中病院 リハビリテーション科 医師 嘉手川 淳 先生
理学療法士 井上 佳之 先生
作業療法主任 高 容康 先生
座 長：市立豊中病院 リハビリテーション科 部長 多賀 一郎 先生
- 第6回 演 題：「痴呆性高齢者の在宅ケアと成年後見制度」
開催日：平成13年10月20日（土）
講 師：立命館大学 教授 二宮 周平 先生
大阪後見支援センター 所長 大國美智子 先生
- 第7回 演 題：「在宅におけるターミナルケア」
開催日：平成15年4月19日（土）
講 師：淀川キリスト教病院 訪問看護ステーション 看護師 高沢 洋子 先生
前宮城県立がんセンター 緩和医療科 科長 佐藤 智 先生
- 第8回 演 題：「神経難病患者における在宅調整」
開催日：平成17年4月9日（土）
講 師：独立行政法人国立病院機構刀根山病院 看護師 前田ひかる 先生
独立行政法人国立病院機構 南九州病院 院長 福永 秀敏 先生

第9回 演 題：「地域におけるホスピスケアの実際」

開催日：平成18年4月22日（土）

講 師：ガラシア病院

病棟師長 高浪 博美 先生

ケアタウン小平クリニック

院長 山崎 章郎 先生

第10回 演 題：「ここまでできる在宅医療」

開催日：平成19年6月2日（土）

会 場：千里阪急ホテル

演 者：(医)松尾クリニック

訪問看護ステーション来夢

矢田みゆき 先生

(医)松尾クリニック

理事長 松尾美由起 先生

第11回 演 題：「認知症を知る」

開催日：平成20年4月19日（土）

演 者：大阪市立弘済院附属病院

神経科精神科部長

中西 亜紀 先生

国立長寿医療センター 研究所

所長

田平 武 先生

第12回 演 題：「神経筋難病の在宅医療」

開催日：平成21年4月25日（土）

演 者：独立行政法人国立病院機構刀根山病院

看護師

山崎 綾香 先生

独立行政法人国立病院機構刀根山病院

院長

神野 進 先生

参加者数は演題にもよるが、過去最高は339名(医師・介護関係者・一般)の出席をえている。

④ 大阪北部地域神経筋難病ネットワーク会議

神経筋難病患者が地域で安心して医療ケアを受けることができるよう、専門医療機関、地域主治医、保健所が会い、より活動を進めています。豊中市医師会としては刀根山病院との連携において大阪北部地域神経筋難病ネットワーク会議への参加を行っている。

⑤ 関連団体との協力

豊中在宅医療・ケア推進連絡会議が定期的に開催されている。医師会から在宅医療委員の参加を通じて歯科医師会や薬剤師会、さらに行政、地域包括支援センターや介護施設などと協力しながら、地域かかりつけ機能の推進に努力している。また、緩和医療医師セミナーへの参加や、市立豊中病院が中心となっている緩和医療ネットワーク協議会（末期ガン患者を主体とする在宅緩和医療）への参加などにより、在宅緩和医療の普及・啓発活動に力を入れている。

⑥ 介護保険事業

医師会員60名が豊中市介護保険認定審査に参加し、認定診査を行なっている。介護保険制度が始まったの全国的な介護保険法改正が平成18年4月に施行されたが、現在のところ審査業務は円滑に運営されている。

また、大阪府医師会の介護・高齢者福祉保険委員にも当医師会より参加し、「介護保険主治医意見書の記入要点」の作成や認知症サポート医養成研修などにも積極的に参加している。今後も大阪府医師会と連携し、介護保険事業の充実化を図りたい。